

## 令和元年度第2回 関東地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会 議 事 概 要

- 1 開催日時：令和2年1月29日（水）～令和2年3月23日（月）（持ち回り）
- 2 開催場所：各委員に個別に資料提示・説明
- 3 出席委員  
委員長 池田耕一 立命館大学大学院 経営管理研究科 客員教授  
委員 赤松幸夫 弁護士  
" 大野正英 麗澤大学 経済学部 教授  
" 岡本直久 筑波大学 システム情報系 教授  
" 山田務 筑波大学大学院 ビジネスサイエンス系 客員教授  
(委員は五十音順)
- 4 議 事  
(1) 令和元年度関東地方整備局コンプライアンス推進計画の  
取組状況について（中間報告）  
(2) 令和2年度関東地方整備局コンプライアンス推進計画（案）について
- 5 議事概要
  - ① コンプライアンス週間のアンケートで、「期間を長めに」、「負担軽減から廃止」或いは「特別に意識しない職員も見られる」などの意見があるが、例えばコンプライアンス月間にしてはどうか。
  - ② 関東地整がコンプライアンスの取組強化を初めて10数年になると思うが、一般的には中だるみする時期である。  
「よくやっている」と思ってやっていることが組織にとって必ずしもベストでない場合もある。
  - ③ 推進計画の中に「組織で課題を解決する」とあるが、最近の民間企業の事例では、組織として課題を認識していなかったという、組織の根幹が抜けていた。個人で対応するようにさせられたというものだが、組織の意思として、個人任せにしない、組織で解決するという価値観が重要。
  - ④ 同じことを同じように律儀にやることに意味がある。マンネリ化をどう防ぐか、繰り返して良いが、どう変化をつけて取り組んでいくか。不祥事が起これば不幸になる。それを防止するために愚直に何回も繰り返して行くことが重要であり、参加者にも毎回そうだなあと思ってもらうことが必要。
  - ⑤ コンプライアンスの取り組みも社会的意義（責任）を意識していくこと、企業全般にいえることだが不祥事を起こさないことだけでなく、社会に対して何ができるのかといった社会貢献や公益性が必要になっている。やってはいけないだけではなく社会的責任を喚起することが、官庁にはまさに重要だと思う。ダメダメでは萎縮してしまう、より良くするために自分たちは何ができるのだろうかと考えることが必要だと思う。
  - ⑥ 毎年の取組に当たって、前年踏襲でなく、講義内容等、少しでも新規性を持つような工夫・検討を続けていくことが必要と思う。